

「イエスの復活と3つの出来事」

ルカの福音書 24 章 1～53 節

はじめに

聖書の中心は、何でしょう。それは十字架と復活です。私たちは、イエス・キリストの十字架の死を記念する受難週を過ごし、先主日はイエス・キリストの復活を記念するイースターでした。今週も復活の時の3つの出来事から学びましょう。

1 空虚な墓と女たちの証言（1-12）。

第1の出来事は、「空虚な墓と女たちの証言」です。

（1）週の初めの日の明け方（1-3）。

イエス様が十字架にかけられて死に、墓に納められたのは、安息日が始まろうとしていた時でした。女弟子のマグダラのマリヤ、ヨハンナ、ヤコブの母マリヤとそのほかの女たちは、香料と香油を用意し、安息日が明けるのを待ち、週の初めの日の明け方に墓に行きました。石が墓からわきまにころがしてあり、墓にはイエスのからだはありませんでした。

（2）ふたりの人の証言（4-8）。

女たちが途方にくれていると、ふたりの人が「あなたがたが捜している方は、よみがえられました。それは以前にお語りになっていた通りです」と語られました。

（3）使徒たちに報告（9-12）。

女たちはイエス様のことばを思い出し、使徒たちとほかの人たちに一部始終を報告しました。使徒たちも女たちの言うことを信じられなかったようですが、ペテロとヨハネは墓に行き、イエス様の死体がないことを確かめて帰りました。

適用：「週の初めの日であった」とありますが、今日の日曜日です。日曜日が教会の礼拝日になっているのは、日曜日が休みだから礼拝しているのではなく、その逆で、イエス様が復活した日だから礼拝するので休みになっているのです。

2 エマオへの道での2人の弟子の証言（13-35）

次の出来事は、その日の午後に起きました。クレオパという弟子ともう一人の弟子が、エルサレムから11キロほど離れたエマオという村に向かっていました。

(1) イエスが彼らに近づき、一緒に歩いて行かれた(13-17)。

不思議なことに、イエス様が彼らに近づき、一緒に歩いて行かれたのに、彼らはイエスに気づきません。

例証：私たちは、何かに夢中になっていると、見えても見えませんが、聞いても聞けない。テレビに夢中になっているときや、考え事をしながら歩いているときなど。

2人は、このいっさいの出来事について夢中で話し合っていたので、分からなかったのでしょうか。

(2) クレオパの証言(18-24)。

旅の人は、「何のことですか」と尋ねます。するとクレオパが答えました。その話をまとめてみると、イエスは行いにもことばにも力ある預言者であったこと。祭司長、指導者たちは、十字架にかけて殺したこと。弟子たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださる方であると、望みをかけていたこと。女たちが墓に行ったらイエスのからだは見つからず、御使いたちがイエスは生きておられると言われたこと、仲間の者が確かめに行くと、イエス様は見あたらなかったことなどです。

(3) イエスの説得とパン裂きによる開眼(25-35)。

イエス様は、預言者たちの言ったことを信じないのかと嘆かれました。キリストは苦しみを受けて、彼の栄光に入るはずではなかったかと、聖書全体からご自身のことを説き明かされました。

そして、食事の時、イエス様がパンを取り、裂いて渡された時、彼らの目が開かれ、イエスだとわかったのです。

適用：イエス様は、聖書全体から説き明かされました。ここに私たちは、礼拝での説教とは何かを教えられます。礼拝の説教は、牧師の考えや、社会評論を語るものではありません。聖書の説き明かしです。聖書が正しく説き明かされる時、人々は救われ、クリスチャンたちは成長し、教会は祝福されます。聖書こそ、神様のみことばだからです。

教会では月一度聖餐式が行われます。聖餐式は単なる儀式ではありません。それは、イエス・キリストの福音を表し、それにあずかる者の信仰を強め、聖霊によってイエス様が私たちのうちにおられることを確信させるのです。私たちが福音から離れないように、イエス様は、聖餐式を残してくださったのです。

3 使徒と弟子たちへの現れと命令と祝福(36-53)。

3番目の出来事は、使徒と弟子たちにイエス様が現れ、彼らに命令し、祝福されたことです。

(1) 使徒と弟子たちに復活の証拠を示す (36-43)

イエス様は、ご自分の手足をお見せになり、焼いた魚を召し上がり、ご自分が生きておられることをお示しになりました。

(2) 復活の必要と意味と彼らへの命令 (44-48)

イエス様は、復活の必要と意味を彼らに確認させました。それは、律法と預言者と詩篇、つまり旧約聖書の書いてあることは、必ず全部成就すること。キリストは苦しみを受け、三日目によみがえることでした。

そして、復活の意味は、「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まって、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」ことでした。つまり、十字架と復活によって、あらゆる人々が救われるのです。

次にイエス様は、彼らになすべきことをお命じになりました。それは、彼らがこれらのことの証人であることを自覚させ、「いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい」です。

父の約束とは、「もうひとりの助け主・聖霊」がおいでになることです。イエス様は、その弟子たちがその聖霊を受けるまでは行動してはいけないと言われたのです。

適用：自分たちの力では、イエス様の証人になることは到底できません。「いと高き所からの力」つまり、聖霊の力が必要です。イエス様は、「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人になります」と言われました (使徒 1:8)。

私たちは、聖霊の助けを求めずに行動してはならないのです。

(3) 祝福と弟子たちの喜び (50-53)。

イエス様は、彼らを祝福してくださいました。これは、礼拝での祝祷を思い起こさせます。礼拝の最後の祝祷は、イエス様が私たちを祝福してこの世に送りだしてくださることを意味しています。

その後の弟子たちは、「喜び、いつも宮にいて神をほめたたえていた」のです。クリスチャンは、いつも喜びます。そして、教会で神をほめたたえます。礼拝で賛美するのは、神をほめたたえることです。単に歌を歌うのとは違います。賛美は、賛美です。

結論

復活のときに起きた3つの出来事を見てきました。
女たちに現れた最初の出来事は、復活の事実です。空虚な墓。御使いの証言。そして、なぜ日曜日に礼拝するのかを学びました。

2番目のエマオの途中では、イエス様が2人の弟子たちに現れてくださいました。そこでは、聖書の説き明かしと聖餐式を見ました。教会の礼拝では、聖書の説き明かしと聖餐式が行われ、それによって、私たちはイエス様に会い、イエス様を確信するのです。

最後に、使徒と弟子たちにイエス様は現れ、彼らに聖霊の力を受けるようにお命じになり、彼らを祝福なさいました。礼拝の祝祷の意味を教えられました。祝祷は、神様が私たちを祝福して、世に送りだしてくださるのです。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが神様の祝福を受けるようになり、この世を去るときには天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」（Iヨハネ 4:10）

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒 16:31）